



# 小網代通信

2018年4月号 VOL-238

発行：小網代ヨットクラブ  
〒238-0225  
神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18  
2017.12月より電話番号が変わりました  
Tel 080-9571-4663  
編集：広報委員会  
編集長：里吉美恵子

## 今月の内容

- |                       |                     |        |
|-----------------------|---------------------|--------|
| ・連絡事項                 | 編集委員                | 1ページ   |
| ・「小網代ヨットクラブ・マリン賞受賞報告」 | 清水 正一(小網代ヨットクラブ 会長) | 2ページ   |
| ・「新コースH & Jコース」       | 野村 政司(KYC レース委員長)   | 3~5ページ |



← 春本番、クラブハウスの周りも色とりどりの花で賑やかになりました。

新兵器?登場 →

新しい冷蔵庫をご紹介します。  
ご使用上の決まりは今まで通りです。  
日付・艇名・名前を記載してから中に入れてください。  
使用中の調味料は保管できません。  
必ず持ち帰ってくださいね。



## 連絡事項(編集委員)

1. < KFR に新コース(HとJ)が加わりました >  
マリン賞を受賞した KFR にも新しい流れが・・・「Hコース」と「Jコース」が登場しました。コース決定までの裏話を3~5ページに掲載いたしましたので是非お読みください。
2. < 自艇のアンカートラブルのアンケート調査が行われます >  
ハーバー管理・整備委員会では、各艇のトラブルや泊地に対するご要望をお伺いすることとなりました。調査にご協力をお願いいたします。
3. < 小網代宣言を覚えていますか? >  
泊地問題を考えるときは小網代の自然に思いを馳せるときでもあります。改めて小網代宣言の意味を考えてみませんか?  
小網代宣言:小網代ヨット史(白崎謙太郎氏著)108ページを参照ください。



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 4月16日(月)18:30~21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

2018.4月号-1

## 小網代ヨットクラブ・マリン賞受賞 報告

小網代ヨットクラブ  
会長 清水 正一



3月10日(土) パシフィコ横浜で開催された ボートショーにて、小網代ヨットクラブがマリンジャーナリスト会議より、MJC マリン賞 2018 を頂きました。

### ●マリンジャーナリスト会議 (MJC) とは、

マリンスポーツ専門誌の編集長など、マリンスポーツ&レジャーの現場で活動するマリンジャーナリストとマリンに関心を持つジャーナリズム関係者・有志の集まりです。

様々な活動を通してマリンレジャーの健全な発展と安全普及を目指しています。

### ●●授賞内容

毎月開催されるフリートレースが、昨年500回を数えた持続性と、自然の泊地において、地元漁協との協力、永年にわたって積み上げてきたクラブの形態と姿勢も対象となった。

●●●クラブレースがここまで永く続けられてきたのはクラブ草創期からの諸先輩方の弛まぬ努力の賜物と改めて感謝する次第です。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

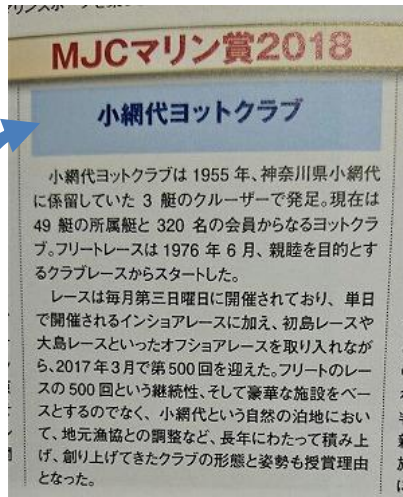
ありがとうございました。

今後も諸先輩の築き上げて来られたクラブの伝統を守り、小網代の環境も守りながら更に 600回・700回と重ねられるよう精進して行きます。

諸先輩方にはまだまだたくさんご指導を頂かなければなりません。

ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上



「舵誌」5月号にボートショーにての受賞記事が掲載されています。

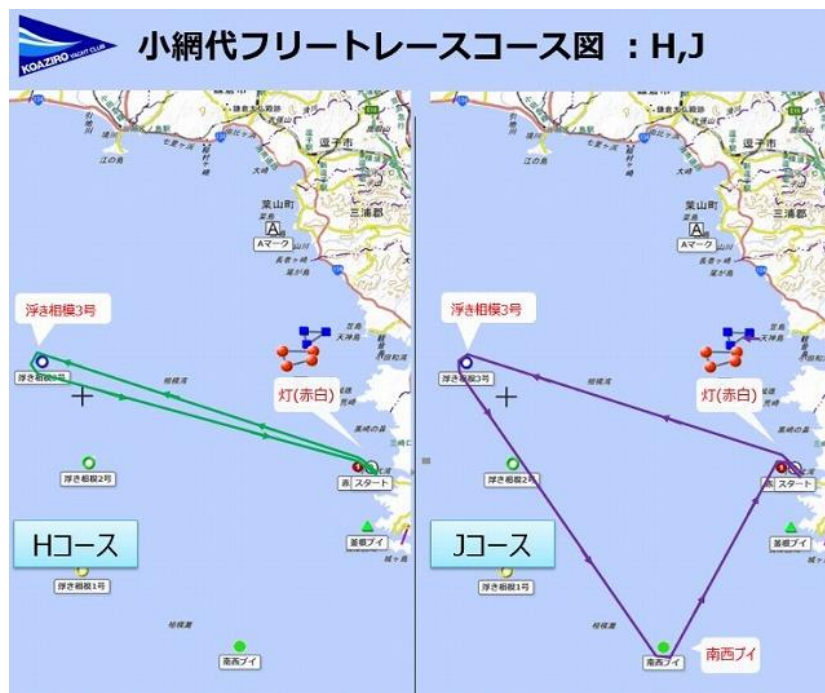
・・・「舵誌 2018年5月号」より

## 新コース H & J コース

レース委員長 野村 政司(はやとり)

こんにちは、レース委員会の野村(はやとり)です。

今回、2018年のKFRから新しく導入した新コース「Hコース」、「Jコース」について、導入までのよもやま話をご紹介します。



### 定置網コースがやばいぞ？

KFR「Bコース」といえば、長井沖の定置網回りのコースを思い浮かべる方が多いことでしょう。しかし、ここ数年この長井沖定置網が安定していません。いままでの位置が沖に移動し、定置網間に水路が設けられるような様子や、亀城礁に近い定置網が廃止されるなど、位置関係が次々と変わっておりました。そしてそれは、水中の定置網固定ロープ類がどのように張られているのかがわからなく、セーリングクルーザー／キールボートが定置網の近辺を安心して帆走できません。

このような状況のため、現在の長井沖定置網をマークにするには相応しくないのと、また、亀城礁へ座礁防止のために設置するKマークがコミティ負担となるのも課題です。それならば、馴染みのEコースなどの回数を増やせばよいのですが、多くしすぎると逆にマンネリ化が懸念され年間レースの面白味がありません、そのため、新しいコースを検討するべきとの思いに至りました。

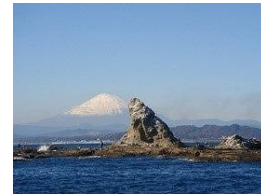
### 新コースの検討

馴染みの「Eコース」で使っている“南西ブイ”以外にどんなマークがあるのか、他のフリートで採用しているマークはどこか、相模湾を中心に調べてみました。その過程で、新コースの候補となったマーク・目印をいくつかご紹介します。下記の表1でまとめたマーク候補を皆様はどう思われるでしょうか、この各条件の中で NO4“浮き相模1～4号”のマーク候補が、このなかでは現実的であると頷けて頂けるものと思います。このような経緯もあり、複数ある候補の中から“浮き相模”の1～4号を採用する方向で、さらに調整をすすめることになりました。



表1. 新コースに採用検討したマーク

NO	マーク候補	特徴	判定
1	釜根ブイ	岸に近いブイ、コース距離としては短い。 G コースとして採用されていた時期もあり、B コース代替するには短すぎる。 AYC では、サンセットレースで採用されている。	△
2	エボシ岩	コース距離が長く、タイムリミットが課題。近辺 にいくつも定置網があり、エボシ岩には水深 が浅いところもある。しかも小網代艇はあまり なじみがないため、情報が少なく安全性に 不安が残る。でも楽しそう。	×
3	バーチャルポイント	KFR は昔から GPS を使わない艇でも参加できる運営をしてきた歴 史があり、GPS プロッタが必須なコース導入には参加艇の意見集約 が必要。よって、時期尚早と判断。	△
4	浮き相模 1～4 号	浮き相模 3 号は江の島ヨット クラブのレースで、浮き相模 2 号は AYC のレースで採用 された実績がある。しかし、 海況によりブイ位置が動くこ とが課題。漁師の間でも動く ことは有名。	○



### ええ～！浮き相模が見つからない

浮き相模には、複数のブイ1～4号があり、この中から、小網代に最も近い“浮き相模2号”が最も良いと判断し、2018年1月のKFRの公示・帆走指示書では、“浮き相模2号”を採用した「Hコース」「Jコース」を公開しました。ところが、2月初旬にKFR常連の衣笠殿から“浮き相模2号”が見つかりません”との報告をいただき、このままでは運営に支障があることが明らかになりました。そのため、2月KFRの終了直後に“浮き相模2号”をはやとりで捜索することにしました。

捜索当日は、風が無くKFRがノーレースとなったぐらい穏やかな晴れで、水平線も見通しできるほどの良い天気でした。そのなかで広範囲に捜索しましたが、衣笠殿の報告の通り、はやとりでも“浮き相模2号”を見つけることが出来ず、やむなく代替えマークとなりそうな“浮き相模3号”の捜索することにしました。



写真1「浮き相模3号」湘南平をみて



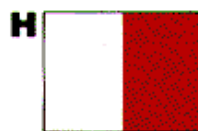
写真2「浮き相模3号」江の島をみて

北上したところに“浮き相模3号”を見つけました。事前情報にあった「海況によって位置が動く」のまさにその通りで、目標位置から北西0.5マイルほどのところに位置していました。その時の写真1、2をご覧ください。“浮き相模3号”が引き波をたてていますし、かなり潮に押されていることが見てとれました。

次に、“浮き相模3号”のレースマークとしての適用性について考えてみましょう。写真の様に、高さはそれほどありませんが、“アウターマーク”や“Kマーク”と同等以上の大きさです。また、“南西ブイ”ほど大きくないため、遠方からの目視が難しいですが、マークとするのに必要十分な条件を満たすと考えられました。なお、海況によりマーク位置が動く点には課題があります。しかし、マークが動くことをレース参加艇が理解していれば、レースコースのマークとしての運営条件は満たせていると考えられたことから、**“浮き相模3号”をKFRのレースマークに採用**できると確信し、2018年公示・帆走指示書の変更を行い、KFR3月の事前連絡として、マーク位置が海況で動く可能性があることを参加艇へ配信しました。

### 新コースを実践してみてもわかったこと

KFR3月、無事に新「Hコース」の運営ができました。当日はスタート直後に風がなくノーレースの懸念がありましたが、昼過ぎに吹き始めた風で全艇無事フィニッシュでき、楽しめた1日になったと考えております。



「Hコース」の運営を実践してみても課題が見えてきました。それは、マーク位置が動くことによるコース距離の算出と、それをスムーズに修正反映することが容易ではないことです。昨今では、レース結果の速報性が求められておりますが、速報性に対応した距離補正には、今後も運営ノウハウを蓄える必要があるでしょう。なお、今回のコース距離修正では、参加艇に搭載している航跡動画「どこでもヨットレース」のGPSデータの結果より“浮き相模3号”の位置を特定し、算出したコース距離を採用しました。

今後、レースを重ね、レース回数で位置の平均化などを行っていけば、帆走指示書の“浮き相模3号”位置の精度もあげられると考えております。

### もっと楽しくKFRを

参加艇のみなさん「Hコース」どうでしたか？すくなくとも、今までにない初めてのコースで、新鮮なレース展開ができたのではないのでしょうか。小網代ヨットクラブホームページにある、レース結果には1位のランカ殿のレースコメントがありますので、あわせて御覧いただければと思います。また、KFR3月の運営にあたり、コミッティを担当いただいた衣笠殿と関係者、レース委員会のみなさま、ありがとうございました。

今回、新コース導入に至った話をまとめました。これだけでなく、もっと楽しいコースや企画ができればと思っています。もし、新コースなどのアイデアがございましたらご連絡ください。また、夏、8/19のKFRでは「Jコース」を計画しております。こちらも新しいコースになりますので、みなさんと一緒にKFRができることを楽しみに期待しております。今後もKFRを盛り上げていきたいので、引き続きよろしく願いいたします。

最後までお読みいただきありがとうございました、以上です。